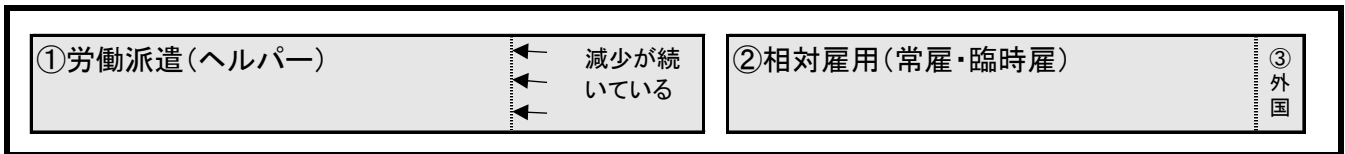


■ 働き手確保対策のあり方資料（案）

別紙

《現状の労働力供給のイメージ図》



《現状と課題》

<p>①労働派遣（ヘルパー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減少傾向、募集しても集まらない ・底辺を広げ募集⇒レベルの低下 ・リピーター40名程度 ・雇用主としての意識低 ・同一賃金・同一条件 	<p>②相対雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、募集手段は口コミ ・他産業と比較し雇用環境の遅れ ・家族経営⇒信頼性低 ・マッチングの機会小 ・競争力のある人に労働力が集中 	<p>③外国人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別農家で20名程度 ・失踪など人権問題 ・H31.4より労働者として受入が可能に
--	--	---

《対策の方向性(案)》

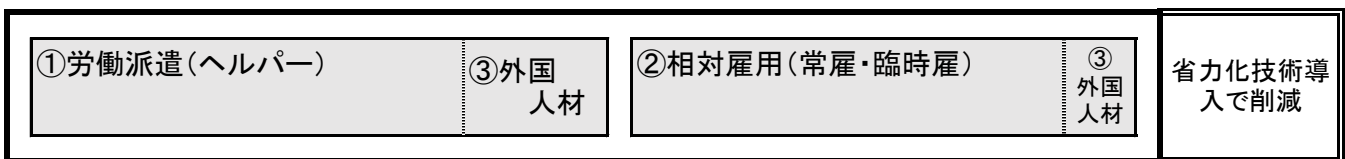
多様な人材の発掘・多様な働き方を受入れる環境づくり

本市がこれまで形成してきた野菜産地を維持していくためには、JA等がこれまで実施してきた①働きを一括確保し供給する仕組みを高度化すること、②働き手確保の手段を多層化することが必要ではないか。

①働きを一括確保し供給する仕組みを高度化すること
 ・確保範囲を外国人材にまで広げて人材を確保し、農業の働き方改革を浸透させること。

②働き手確保の手段を多層化すること
 ・従来のJA等による一括確保と供給システム＋直接農家自身で探していた人材確保の手法について、新たに直接雇用を仲介する機能を持つ組織が市内にあるべきではないか。

この取組により
10年後



<p>①労働派遣（ヘルパー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○減少幅を最小限に ○リピート率向上 	<p>②相対雇用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な働き方を受入 ○高齢化した常雇の世代交代 	<p>③外国人材</p> <ul style="list-style-type: none"> ○減少を補完できる供給先へ ○労働力だけではなく地域活動の担い手としても活躍
--	--	--

富良野農業の目指す姿 ⇒ 持続可能な野菜産地へ